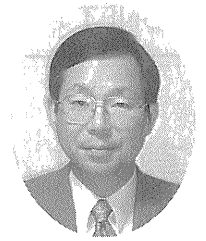


ずいそう

犬と散歩

寺尾正義



昨年来、我が家でペンディングになっていた「犬を飼う」という問題に決着をつけるため、今年の3月に家族でペットショップへ行ってきた。犬を飼いたい理由は家族の中でいろいろとあったのであるが、私自身の理由としては「運動不足を解消するための散歩のお供」としての役割だった。

生来の運動音痴と練習嫌いのため、ゴルフ等はお呼びが掛からず、飲む機会が多くなるに従って、体重と体脂肪率が上昇するという有様だった。「これではまずい。何とか定期的に運動する方法は無いか?」と考えて、一昨年からはウォーキングを始めた。

私の住んでいる所は新潟県のほぼ真中にあるので、ウォーキングに適する場所は至る所にある。休日、天気の良い日に回りの景色を見ながらウォーキングをするのは大変気持ちが良い。しかし雪が降ったり、雨が降ったりまた、平日のときには行く気になれない。中には、夜歩いている方も見かけるが、暗くて危なそうに見えるし、そもそも疲れて帰ってくる私にそこまでの気力はない。

その頃、ウォーキングの途中で愛犬を連れていて人を見かけ、「これだ!」と思った。犬を飼えば、必然的に散歩をさせなければならず、ウォーキングをするきっかけになる。不精の私にとっては、良いペースメーカーになる。そう思って飼うことを決意したのだった。

我が家で飼った犬の種類はシェルティー（正式にはシェットランドシープドッグというそうである）といい、昔テレビで見た「名犬ラッシー」という番組にコリーが出ていたが、ちょうどあれを小型にしたような犬である。我が家に来た当初は、生後2ヵ月くらいだったので、ワクチンや狂犬病の予防注射もできず、家の中で暮らしていた。5月に入ってようやく念願の散歩に出かけることになった。

ところがいざ出かけてみると、頭の中でイメージしていたことと我が愛犬の様子に大幅なギャップがあり、私の計画は修正を余儀なくされた。まず、こちらが連れて行こうとする方向には歩いてくれない、他の犬を見ると怖がり吠えて逃げる、ところが相手の犬が無視

をして歩き出すと後をついていこうとする。こんな風ではとてもまともな散歩なんか出来ない。従って飼い主の言うことを聞かせる、いわゆる「しつけをする」ところから始まった。

そのかいあって、いまでは毎朝6時前には私を起こしてくれ、散歩の供をしてくれる（犬の散歩に私が付いているというのが正しいのかもしれない）。この種の犬は元来牧羊犬であったためか、走るのが大好きであり、散歩の途中で飼い主である私の顔を見て走ることをせがむ。お陰で散歩以上の運動量を確保でき、最近では体の調子も良いように感じられる。

ところで、町の中を犬を連れて歩くようになってから、いままでこの町にいなながら気づかなかったことが沢山あることが分かった。例えば、川の近くに木材を敷き詰めた素敵な遊歩道があり、毎朝犬を連れていて人が何人もいること、また近くの公園で色々な樹木が植えてある小道があり、「俳句の道」という名前がついていることなど。日頃、私自身が家から会社まで車で往復する生活を送り、休日はやはり車で新潟市へ買い物等に出かけ、この町の良いところに全く眼を向けていなかったことに今更ながら驚いた。

また、愛犬を連れて歩いていると、同じような種類の犬を連れて初対面の方から「まだ若い犬ですね、生後どのくらいですか?」などと話し掛けられ、よく聞いて見るとご近所であったことが分かったりする。犬を連れて来た人だけでなく、ご近所のお婆ちゃんや我が家に遊びに来た人にも人気がある。この間も、小学生くらいの小さい子供二人から「かわいい」などと声を掛けられた。

犬を飼おうとした初期の目的は「定期的な運動をするため」であったが、今ではこうした散歩で得られる新しい発見や、色々な人や犬とのふれあひも私の密かな楽しみの一つになっている。世の中ペットブームであり、多くの家庭でペットが飼われていると思うが、我が家でも最後まで責任を持って飼うようにしていきたい。

— 寺尾 まさよし 北越工業株式会社生産本部製造部長 —